



あか みね けん じ
赤 嶺 謙 二

震災がれきの受け入れ

～ 現状では困難 ～

質

震災がれきの受け入れについて、直接には責任を持たない県知事や県議会が、先行決定する手法に対する市の見解は。

答

環境衛生課長

県から、受け入れの要請はありましたが、市民の意思と無関係に計画を進めるものではなく、市民の同意を第一と考え、市として主眼的に判断すべきものと考えております。

質

震災がれきの受け入れは、市民の理解を得ること、市民生活の安全を約束することが、絶対的な条件と考える。

最終処分場を持たない本市は、受け入れは困難と思うが将来的な対応も含めて、市はこの問題とどのように向き合うのか。

答

環境衛生課長

市民の同意を得られない限り、震災がれきの受け入れは行うべきではないと考えます。

さらに、本市は、焼却灰・残渣などの埋立処分を他市の民間処分業者に委託しており、委託先の埋立容積の限界期限が平成26年度末であることから、困難な状況であるものと考えております。



宮城県石巻市

処分が軽すぎるのでは

～ 適切・妥当な処分 ～

質

人権侵害事件で、本市職員への誹謗・中傷のデマ情報を市外の女性に提供した罪で、同僚職員が本年3月30日付「戒告」処分となった。著しく人権を侵害された被害者のことを考えると、処分が軽すぎるのでは。

答

市長

社会通念上、適切・妥当な処分であったと判断しているものであります。

本市農業の方向性は

～ 産地化・ブランド化に向け事業展開 ～



ながの けんじ
長 野 健 児

質

昨年の葉たばこの大量廃作による大規模な農地利用の問題が発生したが、その後の状況について伺う。

答 市長

平成24年度の葉たばこ契約者数は24人で、契約面積については57・15ヘクタールとなり、対前年比で契約者数は75人の減、契約面積では140・32ヘクタールの減となりました。

そこで、これまでの取り組みについては、戦略品目を中心とした作物転換を推進してまいりました。

質

第2次豊後大野市農業振興計画に掲げた農業生産額120億円は達成可能か。

答 市長

葉たばこ廃作による生産額の減少分を戦略・重点品目によりカバーできるように努めたいと考えています。が、目標達成は厳しい状況にあります。



農産物生産体制の強化策は

～ 堆肥生産施設・システムの構築を検討 ～

質

地域ブランド化の取り組みについて伺う。

答 農業振興課長

第2次農業振興計画の重点施策の一つに、「確かなものづくりに向けた取り組み」を掲げています。

その一つが「地域性を生かした産地化とぶんど大野ブランドの確立」です。

確かなものづくりだけではなく、消費者に目を向けたイメージや知名度の向上を図るなどの販売戦略も必要であり、こうした取り組みを継続していきたいと考えています。

質

ブランド化を含め、つくりの基本となるのが堆肥であり、これを安定供給するためには堆肥生産施設が必要と考えるが。

答 農業振興課長

第2次農業振興計画では、確かなものづくりに向けた取り組みと併せ、環境保全型農業の確立を掲げています。

産地化とブランド化を確立する上では、高品質なものを安定生産することが求められ、そのためには有機堆肥による土づくりが必要です。

しかし、この取り組みには、多くの問題や課題が想定されますので、議論が必要かつ重要であると考えています。



白井市土づくりセンター